

日本航空宇宙学会関西支部 ライト祭 2025のお知らせ

1903年12月17日のライトフライヤー号によるライト兄弟の初飛行を記念して、航空宇宙をテーマに恒例の「ライト祭」を下記の要領で開催いたします。本年は対面およびオンラインのハイブリッドで開催します。ライト祭への参加には、事前登録が必要です。詳細は関西支部ホームページをご確認ください。高校生、大学生、高専生といった若い世代や一般の方の聴講を歓迎いたします。

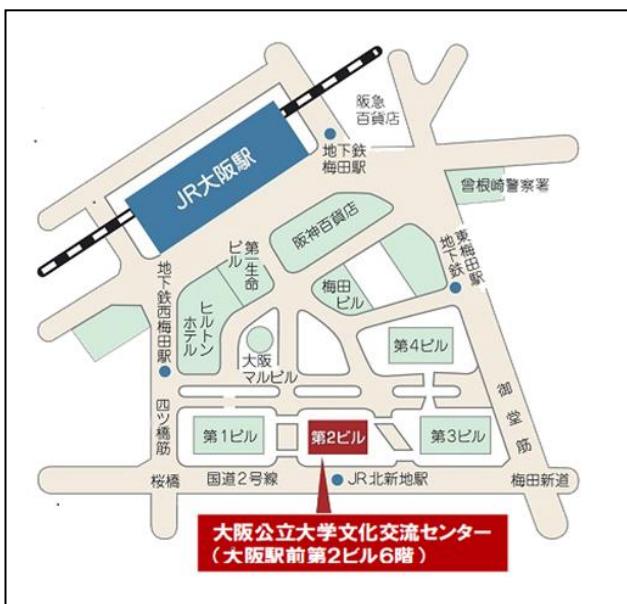
主催：日本航空宇宙学会 関西支部

後援：朝日新聞社

日時：2025年12月20日（土）

14時00分～17時00分

会場：大阪公立大学文化交流センター（梅田サテラ
イト）およびオンライン（Zoom）
大阪市北区梅田1-2-2-600大阪駅前第2ビル
6階（TEL:06-6344-5425）



参加費：無料

定員（現地）：120名

定員を超えた場合は、オンライン視聴をご利用ください。

参加登録：

参加ご希望の方は日本航空宇宙学会関西支部ホームページより参加登録ください。オンライン視聴用URLは参加登録者に後日連絡します。

<http://branch.jsass.or.jp/kansai/>

スケジュール：

14:00～14:30 機器・パネル展示

14:30～15:00 研究・活動紹介

15:00～16:00 特別講演1

16:00～17:00 特別講演2

特別講演1：

超小型推進機が切り拓く宇宙開発の未来

横浜国立大学 理工学部 機械・材料・海洋系学科
教授 鷹尾 祥典 氏

2003年、日本は世界に先駆けて超小型人工衛星の運用を実証した。以来20年で打ち上げは爆発的に増え、10kg以下の衛星だけでも年間300基に達している。超小型衛星を利用したビジネスも数多く生まれ、この流れは今後さらに加速すると考えられる。しかし、スペースや重量が限られる超小型衛星の推進機は、依然として選択肢が少ないのが現状である。フォーメーションフライトなど運用の高度化に推進機は不可欠であり、その重要性は増している。本講演では、近年登場した様々な超小型推進機を紹介しつつ、その最新動向を解説する。

特別講演2：

H3ロケット 開発から運用フェーズへの取組みと今後の展望

三菱重工業株式会社

H3プロジェクト サブマネージャ
北山 治 氏

H3ロケットのRTF(Return to Flight)から約1年半、4機連続で(講演の頃には6機連続になっている筈です)打上げに成功し、開発から運用フェーズへの移行過渡期に入りました。生産整流化/品質安定化/弛まぬコストダウン活動等への取組みを紹介させて頂きます。併せてH3ロケットの高度化や高頻度打上げ化に向けた展望についても触れる予定です。

問合せ先：

京都大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻内

日本航空宇宙学会関西支部 2025年度事務局

e-mail: jsass_kansai2025@t.kyoto-u.ac.jp